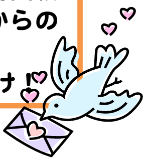
Min Svenska Dagbok

オリーブ元会員、新海美帆さんのスウェーデンからの便りです。#2 と#3 を一気にお届け！



～みほのスウェーデン日記～　#2 Skol Dagar（SFI での生活）

Hejsan！（こんにちは！）

さて、私は今、SFI という移民のためのスウェーデン語学校に通っています。それぞれの事情でスウェーデンに入国してきた移民は、まずこの SFI でスウェーデン語を勉強します。SFI には、A～D（D が一番難しい）までのクラスがあります。日本人だと、何年も教育を受けているので、B または C クラスに割り当てられます。移民としてきた人の中には、アルファベットや母国語の文字すら書けない人、学校にすら行ったことがない人もいるので、そういった人たちは A クラスに割り当てられるそうです。

ご存知の通り、スウェーデンの学校はこの SFI も含め全て無料です。SFI を卒業したあとは、就職したり次の学校に行ったりといろいろな選択肢があります。また、地域によって違いますが、一年以内に学校を卒業できると、特典として 12,000kr（日本円だと 170,000 円くらい）という大金をもらうことができます。なぜこのようなお金がもらえるのか、それは近年の移民問題と深く関係しています。SFI というのは、この国にきてからまず初めに通う学校です。つまり、この学校に通っている間は働くこともできないので、お金の余裕がない移民は、国から毎月最低限の生活をするための金銭的な支援を受けることができます。しかし、働かずしてただ学校に行くだけで毎月お金がもらえるならその方が楽だからと、いつまでたってもずっと SFI を卒業せず、退学させられそうになると教え方が悪いと言い違う学校へ移り、ずっと SFI に在籍しお金をもらい続けるという移民も出てきます。その解決策として取り入れられたシステムなのです。しかし、彼らにとっては、そんな一時的なお金よりも毎月ずっと少しずつお金が入ってくる方がいいに決まっているので、このようなシステムを導入した後も学校を転々としてはずっとお金をもらい続けている（人もいる）というわけです。

私の学校は、母国である程度の教育を受けてきた人のための SFI なので、あまりこのような移民はみられません。よりよい職を得るため、大学を目指す人や、母国で医療関係の仕事をしていて、こちらでもその職に復帰するため勉強している人など、より勉学への意識が高いように感じます。私ももちろん休まず毎日学校へ通っていますが、まだ先生の言っていることが 100％理解できない初心者です。ところが、2 週間ほど前にクラス替えがあり、次のクラスへ上がってしまった私は、その日の宿題がなんなのかすら理解できないこともしばしば。しかし、そんな気持ちがわかるのか、私より前からそのクラスにいたクラスメート達がよく私に声をかけては助けてくれます。

そんな中、私と一緒の時にこのクラスに移動になったギリシャ人の N ちゃんと友達になりました。ギリシャの情勢も少しは回復したのかと思っていたのですが、話を聞くと、現在彼女のお母さんは一ヶ月 700 ユーロしか給料をもらうことができず、生活するだけで精一杯。ローンすら返すことができないので、近々ドイツに移住し新しい仕事を探す予定だそうです。しかしドイツ語をしらない彼女の父はギリシャに一人残って今まで通り仕事を続けるのだそう。このように、仕事やお金のことが原因で、現在ギリシャでは多くの家族やカップルが別れざるをえない状況にあるそうです。そして多くの若者は、高校を卒業後も仕事がないので大学に進学するのだそうですが、学内でコーヒーすら買うことができなず、休憩時間になると家に帰ってはランチや休憩をし、また学校に戻るという生活をしているようです。さらには、このような状況に耐えかね自殺という手段を選んでしまう人も少なくないそうです。大学に隣接する格安の狭い寮で実家を離れ生活をしている学生も多く、彼女もそのうちの一人でした。しかし、親の仕送りだけでは到底生活できないので、生活費を稼ぐため観光シーズンである夏休みを利用しアルバイトをしていたそうですが、16 時間働いても 4000 円～5000 円ほどしか稼ぐことができず、本当に苦しかったそうです。そんな彼女は今、（両親ともにギリシャ人の）スウェーデン人男性と去年の夏にギリシャで出会い、11 月にこちらへ移住し、今は私と同じクラスで勉強しています。

彼女と初めて話をした時には、「あなたには日本で仕事もあったのに、なぜ（より厳しくなる）こちらでの生活を選んだの？？」と驚かれました。

―　　日本は、就職難とはいいつつも、やろうと思えばなんだってできる。
　　　仕事だって、勉強だって、物だって手に入る。

私は日本という平和で安全な国で自分のやりたい事ができる、本当に恵まれた生活をしていたんだなと痛感しました。

家族、友達、恋人・・・スウェーデンの移民の中には、大切な人たちと離れ、連絡手段すらなく日々無事を祈って生活している人もいるそうです。しかし、近年の様々な移民問題から、現在ではこの移民のシステムを無くそうという声も少なくないスウェーデン。移民によって支えられる国になるのか、移民によって崩れゆく国になるのか。これから移民システムは、どういった方向へ変わっていくのでしょうか。そしてこの問題、少子高齢化が進む日本にとっても決して他人事とは言えないのではないでしょうか。

Min Svenska Dagbok

～みほのスウェーデン日記～　　#3 ″Glad påsk!″

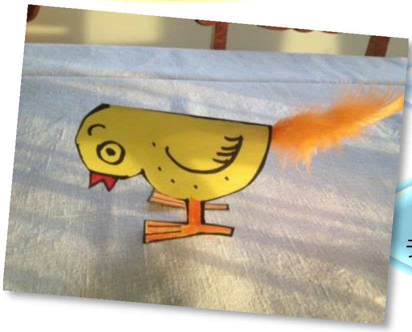
↑ポスクの飾り。
ポスクリースと呼ばれています。

Tja!(こんにちは!)
3 月 31 日はポスク(Påsk:英語でイースターの意味)の日だったので、週末は彼の家族や親戚たちと、別荘で春のお祝いをしてきました。
春といっても、まだまだマイナスの気温の日も少なくないスウェーデン。一応3月31日からサマータイム(この日から、日本との時差は7時間)になったものの、今年は例年よりも冬の寒さがずっと長く続いているそうで、こういう年は春は来ずすぐ夏が来る可能性が高いんだとか・・・春でも夏でもいいけれど、とにかく早くこの寒さから解放されたいです・・・。
話がそれてしまいましたが、スウェーデンでポスクウィークとよばれる 3～4 月の一週間(毎年日程が変わるそうです)は、学校や会社がお休みになるというスウェーデンでも長い長い休日なのです。もちろん私の学校も一週間きっちりお休みでした！
伝統的なスウェーデンの行事なので、今回は文字より写真で紹介させてください！

↑豪華な料理バイキング!

↑私の作ったたまごはどれでしょう!?

↑巨大たまごの中には大量のお菓子が・・・!



←これは 1930 年頃に使われていた飾りだそうです。
当時のように、みんなで紙で作りました。

帰りには、残ったお菓子を持って帰れるよう、
卵形の綺麗なケースをいただきました。おしゃれな
デザインですが、なんとこれは 1894 年の柄だそうです！→

ポスクの季節になると、街は黄色いポスクカラーでそまり、ひよこににわとり、たまごのグッズでいっぱいになります。アメリカのようにうさぎはあまり出てこなかったのですが、こちらでは魔女のグッズがちらほら・・・なんでも、スウェーデンがキリスト教の国になる以前の魔女伝説に基づく伝統が強く残っているからだとか。ポスクの始まる木曜日には、子どもたちが近所を回り、「Glad　Påsk (Happy Easter)!」と言ってキャンディをもらうのだそうです。まるでアメリカのハロウィンのようですね。
憧れの!?たまごのお絵かきもさせてもらったり、外にカラフルな羽を飾り付けしたり、クリスマスに引き続き、豪華な食事をいただいたりと、初めての体験満載のポスクでした。後で聞いた話ですが、私にとって初めてのポスクということで、彼のお母さんがこの週末のためにいろいろ準備をしてくれていたみたいです。クリスマス以来、久しぶりに外国っぽい行事だったので(笑)、とても楽しい週末でした。　(新海美帆)